

「点字の父」の生涯まとめる

市原出身 石川倉次の功績、船橋の作家小倉さん



著書を手にする小倉明さん＝船橋市習志野台

市原市出身で、県が選定した郷土の偉人・先覚者の一人に名が挙がる「日本点字の父」の石川倉次（1859～1944）の生涯を、船橋市の作家小倉明さん（65）が『闇を照らす六つの星』（汐文社）にまとめ、昨年12月に刊行した。県文書館に保管されている石川倉次の60年にわたる日記が活用された。

県文書館保管 60年分の日記活用

元県文書館長の小倉さんは県職員になってからも童話の創作活動を続け、93年には『トレモスのパン屋』（くもん出版）で第1回小川未明文学賞の優秀賞を受けた。これまでは「幻想的

な無国籍童話」が多かったが、今回は前作に続きノンフィクション童話だ。

以前、小倉さんにとって石川倉次は県の偉人として名前を知る程度の存在だった。編集者とのやりとりの中で石川の偉業を取り上げることを決めた。今回、原稿を書くため資料調べをしていて、かつての勤務先、県文書館に「日本人用点字の起源」のほか一次資料として重要な石川の手記、日記が膨大に残されているのを確認、内容の豊かさ



石川倉次（筑波大学付属視覚特別支援学校所蔵）

驚いた。

石川は柏市や千葉市、茂原市などの小学校に勤務。1886年、「楽善会訓言睡院」（現・筑波大付属視覚特別支援学校）に勤める知人の小西信八のすすめで、同校の教員になる。翌87年、小西から、フランスのルイ・ブライユが考案した点字を見せられ、日本で導入するための開発・工夫を指示された。アルファベット26文字、いろは48文字と文字数が違うため、日本語に適合した点字の翻



市美術館で開

を出したい）、山崎萌衣さん（同）は「みなさんに感謝し、ベストの演奏」、城戸望帆さん（1年）は「お客さん自分たちも楽しめ

南三陸町を支援

来月24日船橋で東日本大震災の津波で大

案が必要だった。

以後3年間、石川は千葉から呼び寄せた同僚や学校の生徒らと努力を重ねた。関係者が何度も選定会議を重ねた結果、1890年11月1日、かなが母首と子音で構成されることに着目して作り上げた石川案が採用された。石川は選定後も点字盤や点字印刷機の開発、普及にも尽力した。

小倉さんは「千葉にゆかりのある人が明治期、時代の熱気をもって日本点字を作り上げた。児童向けにやさしく書いていますが、先生たちにも読んでほしい」と話している。

（春山陽一）

朝日ふれあい募金

朝日新聞厚生文化事業団

【東日本大震災救援】2万円
八千代市・福地美津子▽1万円
船橋市・峰台小学校5組 敬称略
◇ご寄付は郵便振替（0013
019166 朝日新聞厚生文化事業団）で受け付けています。通信欄に①寄付②紙面掲載（千円以上）と領収書を「希望する」か「希望しない」か、明記を。

千葉笑い

- 野菜高騰
それインフレが始民
（千葉市）
- 春の選抜野球
体罰のない高校を高野連
（松戸市）
- 回文（橋下市）
タイバツテッパイ
だ
（千葉）
- 川柳
信じよう新成人の
（松）
- 鎌ヶ谷に来たぞフ
ぶり
（柏）

「てごわいライバル」内田夕

